

電機産業における製造請負の実態を映像から見る

再見聞：NHKスペシャル「フリーター漂流—モノづくりの現場で」2005年

高田好章（所員）

NHKスペシャル「フリーター漂流—モノづくりの現場で」52分番組 2005/02/05 21:00 放送

報告用合計映写時間： 20：33

☆この番組を取り上げる意味と報告内容について

- ・2004年3月7日放送のNHKスペシャル「フリーター417万人の衝撃」の続編
- ・電機産業大企業の「偽装請負」が2006年夏に大きな社会問題、その前年に放送。
- ・「偽装請負」問題発覚後は不可能な貴重な映像、間一髪可能な現場検証、希少価値のある映像
- ・「フリーター」→「請負労働者」、その実態は「(偽装) 請負労働者」
- ・若者3人の生活・家族関係・個人的トラブル・寮生活・病気など、個人的な場面は割愛
- ・日研総業と2008年秋葉原事件（派遣労働者の暴走）との関係

☆各場面と音声記録

1) プロローグ：電子産業と手作業、人間ロボット・人の取り替え自由 :1:24

ナレーター（田中邦衛）「朝7時半、若者たちを乗せたバスが走る。みな全国から職を求めて、集まってきた。向かうのは大都市近郊の工場。今、日本のモノづくりの現場は、大きく様変わりしている。フリーターと呼ばれる短期雇用の若者が急増しているのだ。全国の製造現場で働くフリーターは100万人、ほとんどのメーカーがフリーターを活用している。人件費は正社員の半分以下、まかされるのは組み立てや塗装などの単純作業だ」

21歳の若者「人間ロボットみたいな感じですね」

22歳の女性「これは誰にもできるから、私がいなくなっても代わりはいくらでもいるだろうって」

ナレーター「工場から工場へと漂流を続ける若者たち。モノづくりの現場でさ迷うフリーターの姿を追った」

2) 請負会社の入社テスト：学歴や経験は問われない、手の器用さのみ :0:37

担当者「用意スタート」

ナレーター「工場で働くための適性検査。ピンを指定された場所に入れていく。1分半の間に24本入れられようかが、目安だ。」

担当者「左手でお願いします」

ナレーター「学歴や経験を問われることは、ほとんどない」

3) すぐ決まる請負会社採用：やる気と健康であれば、明日からでも :1:15

ナレーター「この日、山端さんが勧められたのは、栃木県にある通信機器メーカー。9月のはじめからすぐに働ける若者を探していた。時給は900円、ひと月に40時間残業すれば、23万円以上稼ぐこともできる。アルバイトの時給が平均700円の札幌に比べて、いい条件が揃っていた。契約期間は半年だ」

担当者「ちょうど受け入れ体制が揃っているところなので・・・」

山端さん「もう、おれでもいってやれるんですか？」

担当者「うっと、特にどんな経験を持っている人に来てください、っていうのがないから、まずはやる気があって健康で、・・・すべてそこにかかっていますね」

山端さん「それじゃ、めどがたった時点で・・・」
ナレーター「早速、翌週から栃木に行くことになった」

4) 請負会社のコールセンター：全国から電話殺到、毎月6千人採用、全国1200社へ : 0:58

ナレーター「山端さんを採用した請負会社の本社」
電話担当「はい、こちらの面接は午後の5時からでいかがでしょうか」
別の電話担当「はい、お待ちしておりますので、はいどうもありがとうございました」「はい、日研総業テレホンセンターでございます・・・」
ナレーター「ここには、全国のフリーターから応募が殺到している。応募した若者を北海道から沖縄まで、200か所ある面接会場に振り分ける。毎月6千人を採用、全国1200社の工場に送り込んでいる。年間の売り上げは1千億円。平成に入って8倍に伸び、業界大手に急成長した」

5) 請負会社の役割とは：請負会社部長の弁、雇用調節弁で社会に貢献: 0:27

請負会社岡元部長「企業さんは今たいがい社員を採られないということ、やはり我々は雇用に対しての調整弁、本当にお客様が自分のところで社員を確保できないとなれば、当然ながら、なんというのですが、季節ものだとか、一時的に業務量が増大した時には、我々が調整弁の働きをして、人を集めるということをして、ま、我々としても社会に貢献できているんじゃないか思っているんで」

6) 製造請負は派遣と違う：人材を派遣ではなく、仕事を請負う形 : 0:35

ナレーター「山端さんたちが働く通信機器メーカー。」
現場リーダー「おはようございます、今日はですね・・・」
ナレーター「若者たちは請負会社の指揮下にはいる。メーカーの指揮下に入る社員とは違う。請負会社は人材を派遣しているのではなく、あくまで仕事を請負う形をとっている」

7) 製造作業風景：請負労働者による携帯電話組み立て、長時間の手作業、コストダウン : 1:51

ナレーター「このメーカーでは携帯電話や半導体の基盤などの製造を大手企業から下請け。中国との価格競争に生き残るためにほとんどの工程を機械化してきた。しかし、生産変動が激しくなる中で、一部の作業は機械では対応できなくなった。若者たちに割り当てられたのは、携帯電話の組み立て作業。モデルチェンジを繰り返す携帯電話の組み立ては、機械化すると採算が合わない。山端さんはつなぎ目の部品を取り付ける作業を担当することになった。一日400台が目標とされた。ひらすら同じ作業の繰り返しだ。このメーカーは、機械化できないラインをほとんど請負会社に任せている。フリーターを積極的に活用し、この3年間で20%のコストダウンに成功した」

8) メーカー社長の話：請負労働者で十分、人員を仕事に対応して操作できる : 0:24

メーカー矢野社長「もうあの一、フリーターで十分ですね。それで、仕事が減ってくれば人を減らす。まあ、フリーターの一番いいところというのは、やはり正社員と違いまして、その時々に対応して操作できるという部分ですね。」

9) メーカー担当者から仕事移動の指示：請負会社は急な仕事の移動も拒まず、すぐ対応 : 2:41

ナレーター「携帯電話の組み立ての仕事が始まって3日目、請負会社現地事務所の室井美明所長が急遽工場に呼び出された。生産調整のため、立ち上げたばかりのラインが突然閉鎖されることになった。室井所長には前もって何も伝えられていなかった。」
所長「・・・どこでどうなったんでしょうかね、という話になるじゃないですか」
担当者「だから、私も今日聞いてね、朝。それで今日、あの・・・」
ナレーター「メーカーの課長は、売れ行きが好調な新機種のラインにまわるよう求めてきた。」

担当者「仕事なくなっちゃうんで、とりあえず、そこでいったんラインを中断してもらってね。また、10月の新規の立ち上がりの時に、再度ラインを構築していけば。もう一回新規でという形で・・・」

ナレーター「仕事をもらっている請負会社はメーカーの要求を断らない。メンバー全員がすぐに集められた。」

所長「こちらのラインでの仕事は今日で完了になります。今日で終わりと、一から出直すというか、また新しい、まったく新しい仕事にチャレンジするということになりますけど、まあご理解いただいていますね・・・」

担当者「移動しますから・・・」

所長「あ、今から？」

担当者「そうです」

所長「あ、そう・・・」

ナレーター「急な移動も、請負会社に一言いえば解決する」

所長「じゃ、早速今日これからですね、そっちの工場に移動します。で、まあ、・・・説明というか、聞いていただいて、月曜日はそのまま・・・」

ナレーター「労働者派遣法で保護されている派遣社員では、こう簡単にはいかない。生産変動に追われるメーカーにとって、請負会社とその下で働くフリーターは、なくてはならない存在なのだ」

10) 請負会社の商業撮影：請負会社はどのように人を集めるか :0:42

撮影担当者「はい、じゃ行きます〜。本番。はい、カメラ。よい、スタート」

ナレーター「請負会社の商業撮影。キャッチフレーズは、必要なときに必要な人材を」

撮影担当者「カット」

俳優1「ここですか？・・・止まりました、はい」

俳優2「頑張れよ」

俳優1「はい、頑張ります」

ナレーター「いまや1兆円産業と言われる請負業界。全国1万社がフリーターの確保にしのぎを削っている」

11) タマを送る請負会社：部長、率直な言葉で本質を語る、請負労働者は使い捨てのタマ :0:24

請負会社岡元部長「いつも我々は必要な時に必要な人材を、って歌い文句うたっているじゃないですか。ですから急に言われて、企業さんによっては、明日じゃ30人つれてこいや、という企業さんもございますね・・・。戦争だと思っています。毎日が戦争ですね。1名でもタマをおくりたい、というのが我々の本音だと思います」

12) 製造現場への請負・派遣の急増：請負社員100万人を超える、単純作業の訓練：1:32

ナレーター「請負会社の業界団体によれば、製造業に送り込んでいるフリーターは100万人を超える。熟練した技能が求められるモノづくりの現場では、長年人材派遣は禁止されてきた。ところが激しい価格競争にさらされる中で企業は、請負会社に使って大量のフリーターを受け入れるようになった。急な配置転換や、人員の調整をメーカーに替わって請負会社がやってくれるからだ。国もこうした現実を踏まえて、去年3月、製造現場への人材派遣を解禁した。工場働くフリーターは今後増えると予想されている。自動車・家電・半導体、日本経済を引っ張ってきた製造現場が、労働力を今、フリーターに頼っている」

13) ラインリーダー簡単に選出：少しの製造経験、時給同じ、手当なし、メーカーと折衝 :0:54

ナレーター「工場での経験が豊富な當野さんは、すぐ現場のリーダーに指名された。工場が初めてという若者が多い中で、人一倍期待された。それでも時給はみんなと同じ900円。メンバーをまとめる

だけでなく、メーカーとの窓口役も務める。工場の生産計画を聞き、仕事の割り振りを考える。納期を守れなければ、責められるのは當野さんだ。時給以上の責任を負いたくないのが本音だ」

1 4) またまた仕事が変わる：仕事が短期間で変わる、スキルは磨けない、必要もされない :0:46

ナレーター「請負会社の室井所長がまた工場に呼び出された。あらたな生産変動だ。ラインの要員配置を変えなければならない」

担当者「じゃ、所長に入ってもらって、状況を説明してもらって・・・」

ナレーター「メーカーが大口の得意先から急ぎの仕事を頼みこまれたのだ。半導体の基板を加工する仕事だった。ラインの10人は携帯電話の組み立てを続けるグループと、別の工場で基板の加工をするグループの二つに分けられることになった。」

1 5) 電子機器に筆の手作業：どんなに自動化されても手作業はなくなる : 1:00

ナレーター「社員のロッカーを置いていた部屋が、急遽作業部屋に改造された。ブラックライトで照らしながら、細かく指定された場所を確認し、塗り続ける。1枚、表と裏を塗るのにかかる時間は、30分から40分。一日中、暗い部屋での根気のいる作業が続いた。」

1 6) 給与は働いた時間のみ：病気したら、残業しなければ、生活できない :1:38

ナレーター「當野さんが出勤したのは19日。残業は8.5時間しかできなかった。時給で契約するフリーターの給与は働いた時間がすべてだ。支給総額は、14万7千円。社会保険料や寮費の他、病気で早退した分も引かれていた。手取りは、6万7千円。前の月よりも8万円ほどダウンした」

當野さんの妻「全然足りないじゃない、これ1か月分だよ。」

當野さん「うん」

當野さんの妻「ひどい・・・」

當野さん「貯金とか・・・、考えなくちゃいけない・・・」

ナレーター「二人は将来の出産や育児に備えて、積み立てを始めるつもりだった。すべて残業をあてにしていた。6万7千円では一か月分の生活費にも足りない。この先残業をできる保証もない」

1 7) 稼げなければ辞めていく：貴重な戦力でも、仕事を保証できない請負会社 :1:50

ナレーター「12月1日、請負会社の現地事務所に、當野さんが来ていた。すでに辞める決意を固めていた」

當野さん「今月の、あの3日付で、辞めようと思っています」

室井所長「今月？」

當野さん「そう、今月です」

室井所長「の？」

當野さん「3日で、辞めよう、と思っています」

室井所長「それじゃ明日、明後日じゃない。ああ、あの～入社の際に、さあ・・・」

ナレーター「當野さんは請負会社にとっては貴重な戦力だ。」

室井所長「2週間前の通告・・・」

ナレーター「急に辞められては、室井所長の立場がない」

室井所長「たとえば、當野君が辞めたあとはどうするんだ、ということ話があるし、何時辞めるんだつたら辞めるで、當野君の代わりを探さなきゃいけないじゃん・・・」

當野さん「そうですね」

室井所長「當野君みたいに真面目にやっている人が突発辞める。それも、たとえば人が足りなくなった分どうなるの、どうにかしろよ、って（メーカーから）怒られるわけじゃない、うちは、うん」

當野さん「手取りは、札幌での話では、普通14万から15万ありますよ、って話で来たんですよ。そ

れで納得して来たんですよ・・・」

室井所長「それは、何度も言うように、現場は生き物だから、残業のある、ないはある・・・」

當野さん「保証してくれますか。できない話じゃないですか。そしたら、やっぱりこれはもう、自分の問題になるじゃないですか。」

ナレーター「30分近く説得を続けたが、當野さんの意志は変わらなかった。またひとり、フリーターが去って行った」

18) メーカーのアルバイトへ転身：時給が150円アップ、製造経験者はアルバイトへ : 0:46

ナレーター「1月。辞めたはずの當野さんが工場に戻っていた。今度は妻のあゆみさんも一緒だ。請負会社を通さず、直接メーカーに頼んで、アルバイトとして雇ってもらうことになった。時給は1050円、150円アップしたが、今もフリーターのままだ」

19) エピローグ：また新しい生活が始まる、全国を漂流する請負労働者 : 0:33

ナレーター「人も物も、目まぐるしく移り変わる日本の製造現場。今日も、全国各地で若者たちが漂流を続けている。」

☆まとめ

- 1) 製造会社：製造コスト削減、正社員削減、アルバイト、請負会社利用 : 製造コスト20%減
(株)アローテックス：本社神戸市兵庫区、那須工場：栃木県那須塩原市、各地に工場
従業員数：450名（2013年現在）：1995年携帯電話製造参入：富士通内。人材派遣も
- 2) 請負会社・日研総業：全国から労働者を各地の製造現場へ「タマ（使い捨て）」を送り込む
毎月6千人のタマを製造現場へ、年間売り上げ1千億円、平成に入って8倍、業界大手に急成長
- 3) 請負会社に生産ノウハウ無く、メーカー指示の人員配置：請負会社ラインと自社ラインの混在
- 4) 次々替わる仕事、拒否しない請負会社、メーカーの要請に振り回される
- 5) 残業要求に打つ手のない請負会社：仕事を自ら作れない請負会社
- 6) 日本の産業で技術の先端を走る電機産業の製造現場に、請負労働者の存在と手作業
移動電話出荷数：1999年～2007年度4千万～5千万台 2014年度2.2千万台
- 7) 請負労働者の仕事を、ラインでメーカーの担当者が常に製品の仕上がりチェック : 違法性有
- 8) 請負労働者からメーカーのアルバイトへ転身：正社員へ登用を約束（※本によると）
メーカーはラインの請負労働者をよく把握：メーカーの当然の人事管理の一環
- 9) 労働者は仕事を探しに請負会社の採用事務所を訪れる：仕事の紹介が労働者の本意
請負会社に採用されるためではない：民間ハローワーク
- 10) 請負労働者は学歴・経験問われない
- 11) 機械の代わりに単純な作業が一日続く：人間ロボット
- 12) 請負労働者の仕事：短期間で別の仕事に回される：仕事内容の頻繁な変動 :
生産労働者としてのスキルは磨けない、必要もされない
- 13) ラインリーダー：同じ時給で手当なし、少しの製造経験、責任だけが課される
- 14) 残業をしなければ生活できない給与、病気をすれば給与は激減 : 一週間病欠・残業激減で
8万円減：手取り6万7千円 : 生活費7～8万円 通常月：22～23万、
手取り：14～15万円：提示給与：23万＝15万＋8万、休日・残業：30～40%
- 15) 昇給もなく、契約期間が終われば、また別の仕事を探す：契約期間が満了しない請負労働者
この番組の3人の主役はみな途中退社 : 半数が契約期間の半年を満了しない

☆追記：

- ・エピソードに出て来る後姿の請負労働者：北海道から愛知県の自動車製造会社へ
 - ・この放送から3年後・・・
- 2008年6月8日の「秋葉原事件」：派遣労働者の暴走事件：死者7人、負傷10人
派遣会社→この番組と同じ日研総業
派遣先：関東の自動車製造会社
この番組が大きな社会事件を予言したのか
- ・この番組は、若者の新たな現状を映し出している。それは若者という立場での番組作りである。
- ・のちに出版された本も、同様の若者の生き方を主題に据えている
- ・「若者」および「フリーター」と呼んでいることに、若干の違和感がある
- ・北海道から送り込まれた人を中心に番組が作られている。失業率の高いある地方から、都市近郊の工場に人が送り込まれてくる。

☆参考資料

電機連合2001年調査によると、

- ・調査回答事業所（316）の3分の2が請負労働者利用
- ・生産変動：下78～上128：幅50ポイント
- ・各事業所人員の1割強が請負労働者
- ・電機産業全体で請負労働者は推計10万人
- ・過去3年間（1998～2000年）で請負労働者数が2倍

○番組後に出版された本：松宮健一『フリーター漂流』旬報社、2006年

☆付記

この番組のうち、報告で取り上げなかった場面

- ・札幌の若者21歳山端さん、祖母に朝起こされ求職へ向かう
- ・請負会社本社で：営業部朝礼
- ・栃木県の工場に到着：寮に入る
- ・朝の出勤、寮で起こされて、マイクロバスに乗り込む
- ・最年長35歳の請負社員：橋掛さん登場：寮で札幌から届いた荷物を前に語る
- ・札幌で、橋掛さんのお父さんの仕事とお母さんの話
- ・山端さん、製造ラインで騒動、請負会社と話し合い、退職に
- ・帰ってきた山端さんの札幌の自宅で、母親と
- ・あらたな夫婦の請負社員當野さん（本では仮名：今井さん）：インタビュー
- ・食堂で：請負とパートが昼食、請負社員に連帯感が出てくる
- ・基板塗布作業が始まった：シンナー溶液を混ぜる橋掛さん
- ・當野さん倒れる：ストレスと疲れで38度の熱で寝込む
- ・當野さんが職場復帰：1週間後、でも残業（仕事量）は減っている
- ・給与明細が渡される：メーカー社員が手渡し
- ・また別の仕事をして、将来の不安を口にする橋掛さん
- ・札幌に帰る橋掛さん、父親に離職を話しても理解されない
- ・山端さんのその後、またアルバイトを探している
- ・橋掛さんが再び請負会社で紹介をうけるが、年齢で限られた仕事しかない